

山菜山行in叶津川

大竹 尚子

■山行年月日:2021 年

5 月 29 日～30 日

■メンバー:(先発)石川貴大、斎藤憲一、佐藤利伊、齋藤宇、大竹幹衛、佐藤敏二、小沼充範、増田寿代、大竹尚子 (後発)窪田道男

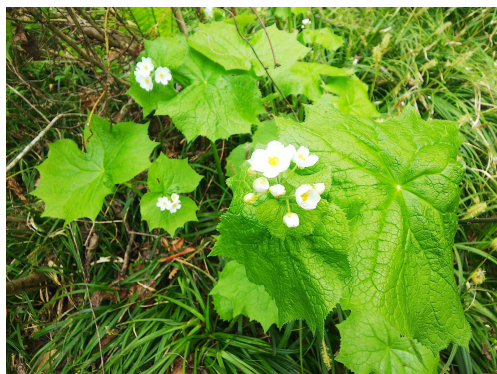
■コースタイム:

29 日 平石山スノーシェッド 7:48～木ノ根沢橋 9:50-10:00～赤崩沢分岐 12:00-12:20～引入沢出合付近テント場 13:30

30 日 テント場 7:30～赤崩沢 8:50～テント場 11:00～木ノ根沢橋 12:35-10:50～平石山スノーシェッド 15:00

今年の山菜山行は、叶津川支流赤崩沢で行われた。BC の場所は、引入沢出合付近のゼンマイ小屋跡とした。

平石山スノーシェッドに集合し、長いアスファルト道を歩き出す。ヒロシ君はマウンテンバイクだ。木ノ根沢出合で大休止し、ここから小沼君にリードしてもらい昔から使われていたゼンマイ道を



サンカヨウ

辿る。以前、赤崩沢に来た時にはこの道が分からずまっすぐ叶津川へ降りたのだが、こんないい道があったとは。コシアブラを採りながら少し藪を漕いで森に入ると、ため息のするような新緑のブナ林が広がる。やがて道は叶津川へ下るが、岩場に足場が刻まれ、ロープ代わりに電線が張ってある。

やっと叶津川へ降りる。森からいきなり開けた場所にでた。対岸に渡っても踏み跡は続き、引入沢出合まで続いていた。左岸の台地はコゴミの畑で、その中にサンカヨウの白い花があった。本当に久しぶりに見たので感激だった。赤崩沢出合で沢の流れの音を聞きながら昼食



長いトンネルを抜けて



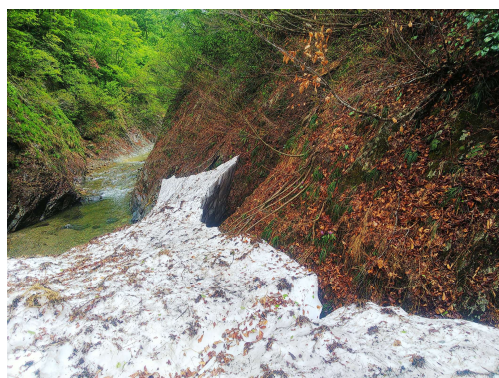
叶津川と赤崩沢の出合い

とする。水量が多いので、以前、9月に来た時とは印象がずいぶんと違う。



引入沢のゼンマイ小屋跡で

ここからほ一さん達は本流ヘイワナ調達に出かけ、他のメンバーは引入沢分岐を目指した。ゼンマイ小屋少し手前に絶好の場所があり、設営する。ブルーシートをかけるロープを張るのにケンちゃんが手作りアブミの技を披露する。やがて、ほ一さん達もやって来て焚火が燃え上がり、宴が始まった。リーダーの上げる天ぷら、ウドの胡麻和え、コシアブラご飯、山菜汁、イワナの塩焼きをみんなで堪能した。なかなか来ない窪田さんを心配したが、暗くなってから無事到着した。木ノ根沢橋からアスファルト道路を進んでしまい、県境あたりまで行ったそう。そこで間違いに気づき引き返し



雪溪が不安定に残る赤崩沢

てやって来たそう。ご苦労様でした。

翌日はイワナ飯を食べて、ゼンマイ採り、魚釣り、上流部散策と分かれて赤崩沢を満喫した。赤崩沢上流へ向かうと雪溪が不安定に沢を埋めていて、中間部までしか進めなかった。テント場集合は11時なので無理をせず引き返した。

名残惜しいがテント場に別れを告げ、みんなで下山する。ほ一さんの大型ザックはゼンマイでずっしりと重い。それでもゼンマイを見るとやはり手が伸びるのである。

アスファルト道に出ると、ヒロシ君は風のように下って行った。残りのメンバーはひたすら足を前に出し、休みを入れながらゲートに向かったのである。



「あなたは森の主ですか？」